

今号のテーマ:『酪農・畜産』

1.令和元年度 北見地区総合家畜市場 相場

【乳牛市場（初妊牛）】



○ 乳牛市場における令和元年度の初妊牛相場は、平成30年度に比べ2割弱下落して推移しています。

○ 肉牛市場における令和元年度の黒毛相場は、去勢・メスともにほぼ前年度並みで推移しています。

【肉牛市場（黒毛）】



【一般市場（廃用・初生）】

○廃用牛価格

(単位: 千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度平均
令和元年度	192	181	193	185	166	173	167	165	179	0	0	0	178
平成30年度	174	167	174	160	167	175	158	162	164	154	163	156	165
前年比	110%	108%	111%	116%	99%	99%	106%	101%	109%	0%	0%	0%	108%

○初生トク（ホル雄）価格

(単位: 千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度平均
令和元年度	146	138	135	133	115	106	108	104	104				122
平成30年度	164	160	149	140	125	114	135	143	138	117	127	149	139
前年比	89%	86%	91%	95%	92%	93%	80%	72%	75%	0%	0%	0%	88%

※ 価格はすべて税込価格で表示

◎ **上場家畜は商品です。**家畜市場に上場する際は、牛体の汚れを落とし、削蹄等をして上場お願いします！

2. 豚コレラについて

(1) 豚コレラの概要

豚コレラには、国内で拡大している豚コレラ(CSF)と海外で拡大しているアフリカ豚コレラ(ASF)があります。CSFもASFも豚やいのししの病気であって、人に感染することはありません。仮にCSF、ASFにかかった豚の肉や内臓を食べても、人体に影響はありません。

CSF、ASFいずれも豚やいのししへの強い伝染力と高い致死率が特徴で、治療法はなく、発生した場合の家畜業界への影響が甚大であることから、家畜伝染病予防法の中で家畜伝染病に指定されています。

CSFは世界各国に分布しているが、北米、オーストラリア、スウェーデンなどでは清浄化を達成しています。ASFは、日本は今のところ清浄国ですが、アフリカでは常在的に、ロシアおよびアジアでも発生が確認されているため、今後とも、海外からの侵入に対する警戒を怠ることなく、発生予防に努めることが重要です。

また、CSFもASFも症状がわかりづらい病気なので、少しでも異常が見つかった場合には、直ちに関係機関に問い合わせをすることが非常に重要です。

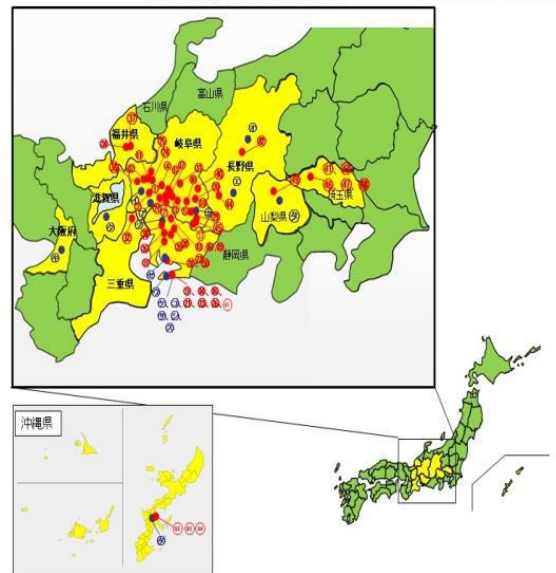
(2) 直近の状況(農林水産省ホームページより抜粋)

平成30年9月9日、岐阜県の養豚農場において、我が国では、平成4年以来26年ぶりとなるCSFの発生が確認されました。その後、令和2年1月14日までに岐阜県、愛知県、長野県、滋賀県、大阪府、三重県、福井県、埼玉県、山梨県、沖縄県(1府9県)での発生が確認されています。

また、平成30年9月13日以降、岐阜県、愛知県、三重県、福井県、長野県、富山県、石川県、滋賀県、埼玉県、群馬県、静岡県、山梨県(12県)において野生いのししからCSFの陽性事例が確認されています(令和2年1月14日時点)。なお、その他の都道府県においても、死亡した野生いのししの検査を実施していますが、陽性事例は確認されていません。

CSFの防疫措置対応(概要)

令和2年1月14日 9時00分現在



(3) 畜産公社の防疫体制について

畜産公社では、防疫体制として主に5つに取り組んでいます。

1. 敷地内入口に石灰の散布
2. トラックの洗浄・消毒
3. 着替えの徹底
4. 搬入終了後、再度トラックの洗浄
5. インタビューシートの記入

公社を利用する業者や訪問者、すべてに実施し、旅行をしていないか等の確認を行っている。

● 北海道米の輸出関連について
～ホクレン北見支所 パールライス販売課～

パールライス部では北海道米の輸出に取り組んでおり、11月末現在で**631トン(前年同期100トン)**と着実に伸長しております。

【令和元年4～11月実績】

香港	240トン(前年同期27トン)
中国	126トン(" 12トン)
シンガポール	54トン(" 35トン)
タイ	44トン(" 25トン)
その他	167トン(" 1トン)
合計	631トン(" 100トン)

● オホーツク・スマート農業セミナー2020【畑作】 が開催されます。

1 趣 旨

担い手の不足や高齢化、農家戸数の減少に伴う経営規模の一層の拡大が進行する中、将来にわたって農業生産を支えていく切り札として、ロボット技術やICTを活用し、省力化等を実現する「スマート農業」への期待はますます大きくなっています。

オホーツク管内におけるスマート農業の効果的な推進を図るため、「オホーツク・スマート農業セミナー2020【畑作】」を開催します。

2 開催日時 令和2年2月12日(水) 13:00～16:30

3 開催場所 端野町公民館(北見市端野町二区471-11)

4 主催 オホーツク・スマート農業推進会議

5 講演

スマート農業技術(自動操舵システム・可変施肥)の導入事例と効果分析
ドローンを用いた農薬防除
地図システムを活用した輪作体系の見える化

6 参加費 無料

7 参加申し込み・問い合わせ先 オホーツク総合振興局農務課



●アグリポート別冊「農福連携」ガイドブックを発行 《営農支援推進課》

ホクレン営農支援センターでは農福連携に取り組むためのポイントを分かりやすく紹介したガイドブックを発行しました。アグリポート23号の特集でも紹介している農福連携ですが、このガイドブックではより具体的な内容を掲載しています。農福連携に興味を持っている方やこれから始める方にきっと役立つ情報が満載です。

ぜひ、アグリポート23号と合わせてご覧ください。



●訓子府で担い手向け研修会「小麦・豆類」を実施しました 《営農支援推進課》

営農支援センターでは、就農年数の浅い担い手の人材育成を目的とした研修を実施しています。今回、「小麦・豆類」をテーマに1月16～17日に訓子府実証農場で研修を行い、11名の生産者が参加しました。

研修では、小麦や豆類の基本的な栽培技術のほか、土づくりやスマート農業、販売情勢、病害虫と防除法などについて学びました。また、参加者は今年度完成したばかりの研修寮に宿泊。1日目の夜は懇親会も行い、地域を越えて交流を深める様子がみられました。



★内容に関してのお問い合わせやご意見・ご感想につきましては、ホクレン北見支所 営農支援室（担当：川口）まで、メールにてお願いいたします。（アドレス：11einousien@hokuren.jp）

～次号予告～

次号（令和元年度第12号）のテーマは『馬鈴しょ』です。乞うご期待下さい！